

# くれまつ佐一候補が善戦健闘 皆様のご支援に感謝いたします

2019年2月8日 革新県政の会 代表常任幹事会

(1) 2月3日投開票の愛知県知事選挙で、革新県政の会が擁立した、くれまつ佐一候補は、勝利できませんでしたでしたが、35万5311票（得票率16.68%）を獲得し善戦健闘しました。

今回の知事選の取り組みは、「会」が取り組んだ2000年代の5回の知事選では前回の39万票に次いで2番目に多い得票でした。13の市区町村では、前回票を上回りました。

くれまつ佐一候補の推薦・支持決議は1000組織を超え、政党では、「会」に参加する日本共産党に加え、新社会党愛知県本部、緑の党・東海から推薦をいただき、社民党愛知県連合幹部に応援していただきました。安倍9条改憲や原発ノー、カジノに反対する市民団体などがくれまつ候補を支援しました。市民の自主的な集まり「#くれハウス」、若い世代を中心としたSNSによる情報発信などがかつてなく広がりました。

ご支持をいただいた有権者のみなさん、ご奮闘いただいた革新県政の会参加団体や協力・共同されたみなさんに、心からのお礼を申し上げます。

(2) 今回の知事選挙は、争点・対決点は鮮明でした。県政のあり方では、大型開発優先・大企業応援の大村候補にたいし、くれまつ候補は、「誰もがふつうの暮らしができる愛知県政を」をスローガンに「くらし第一・県民応援の県政」を訴えました。また、県民のくらしと平和をおびやかす消費税10%増税、大軍拡・改憲を進める安倍政権と「連携と協力を図っていく」とする大村候補にたいし、くれまつ候補は「退陣を求める」として国の悪政から県民を守る態度を表明しました。大村候補は、177万票を得ました。しかし、その得

票は推薦政党（自民党県連、公明党、立憲民主党、国民民主党）が2017年衆院選で獲得した県内比例票284万票の62%にとどまりました。ここには、「愛知版アベノミクス」である大村県政や安倍暴走政治、国政与野党の相乗りへの県民の疑問と批判が反映しています。4日付「中日」社説は「大村氏に相乗りした与野党は現職を支持した理由をきちんと有権者に示せたのか、疑問も残る」と書いています。

くれまつ候補と革新県政の会は、「愛知県の財政力は全国2位だが、1人当たりの福祉・教育予算は全国最低水準」と告発し、財政力を生かせば、福祉・教育の充実はできるとして、財政力全国7位の静岡県が昨秋から18歳までの医療費無料化を実施していることを示しました。限られた選挙期間でしたが、こうしたくれまつ候補の訴えが届いたところでは、くれまつ候補と「会」の政策への共感と賛同が広がりました。

(3) 革新県政の会は昨年来、知事選に向けて県民のみなさんの切実な要求を政策にまとめ、県に実施するよう申し入れも行ってきました。こうした取り組みによって、県立学校のトイレ洋式化計画や危険な学校ブロック塀の改修、平和県宣言の県庁ホームページ掲示などが実現しました。

今回の知事選の取り組みは、県政革新をめざす県民の共同でも、県民要求の実現でも新たな前進をつくることができました。革新県政の会は、くれまつ候補と「会」の政策や選挙を通じて寄せられた要求や願いの実現、県内各地の様々な運動の発展をめざし引き続き奮闘する決意です。